

学術研究と安全保障 を巡る議論の背景

日本学術会議連携会員

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻

須藤靖

2018年3月14日 15:15-17:15

日本天文学会春季年会@千葉大学
特別セッション「安全保障と天文学」

今回のセッションの目的

- 2015年に防衛装備庁が「安全保障技術研究推進制度」を開始
 - 複数の大学・研究機関が応募し採択されたことで、その是非に関する議論が巻き起こる
- 2017年3月24日、日本学会が「軍事的安全保障研究に関する声明」を公表
- 2017年11月より、天文月報において「シリーズ：安全保障と天文学」の連載開始
- 天文学会の、特に若手会員に、この問題に真摯に向き合い続けてほしい

「軍事的安全保障研究に関する声明」

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/anzenhosyo/pdf23/170324-seimeikakutei.pdf>

- 研究成果は、時に科学者の意図を離れて軍事目的に転用され、攻撃的な目的のためにも使用されうるため、**まずは研究の入り口で研究資金の出所等に関する慎重な判断が求められる**
- 研究の適切性をめぐっては、学術的な蓄積にもとづいて、科学者コミュニティにおいて一定の共通認識が形成される必要があり、**個々の科学者はもとより、各研究機関、各分野の学協会、そして科学者コミュニティが社会と共に真摯な議論を続けて行かなければならない**

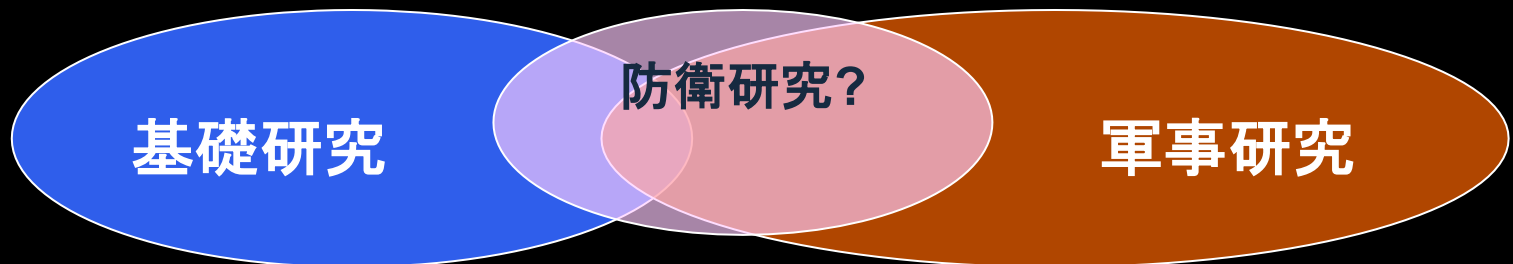
何のための、誰のための研究か： 問われているのは科学者の矜持

- 防衛省の側に立てば今回の制度は合理的
 - 防衛省のミッションは国の防衛
 - そのために役立つ科学・技術が存在するなら、可能なものはなんでも利用したいが、人材が不足している
 - 一方で、研究資金不足に悩む基礎研究者にとっては、潤沢な防衛予算からのサポートは朗報のはず
 - その結果、研究者には基礎研究、防衛省には軍事研究のデュアルユース的開発が推進できれば一石二鳥ではないか
- この意味において、私は決して防衛省が悪であるといった価値観を主張しているのではない
 - 重要なのは、それがやがて何をもたらすかを熟慮して、自らの責任を判断する科学者側の行動

私が同意できない意見の例(1)

- 基礎研究と軍事研究の線引きは不可能。防衛研究に限定して認めれば良い

⇒ 基礎と軍事の線引きができない以上、防衛と軍事の線引きはますます論外。答えのない問いはやめ、研究資金提供元を基礎研究と軍事研究の具体的な定義として採用すればよい。善悪とか是非といった価値観を持ち込むときりが無い。



線引きが困難な代表例

- 毒ガスを遮断する特殊な繊維の開発
 - 危険な作業従事者、医療関係者の安全
 - 万が一、テロや戦争が起こった時の国民の生命
 - 一方、高性能の毒ガスマスクが完成すれば、戦地での直接的軍事行動の可能性をより高める
- 私は防衛装備庁からの資金で研究すべきではないと考える
 - 厚労省や文科省の研究費で十分進めるべきで、そうでない現状を変えるべき
 - 非常事態に自分や家族がマスクを装着しないと表明しているのではない(そう問いかけてくる人も多い)

私が同意できない意見の例(2)

- 過度に警戒し過ぎである。問題が起こればその時点でやめれば良い。それは研究者がいつでも決められる。それよりも、研究者の研究テーマ選択の自由を制限してはならない。
 - ⇒ 研究の自由は無制限に認めるべきではない(生命倫理などもその例)。防衛省の資金提供は、研究テーマに自由ではなくバイアスを持ち込んでいる。その場合、「高度な民主主義」が発達した国であろうと、その後研究者にやめる権利が委ねられているとは思えない。しかも後になればなるほど引き返しは難しくなる

私が同意できない意見の例(3)

- 国民の税金で支えられている以上、基礎研究者も国のための研究に協力すべきである

⇒ 国(より適切には社会)のための基礎科学との観点には共感。しかし「国」と「その時点での国の政府」が必ずしも同じではないのは歴史的事実。学術研究とは、国境に関係なく全地球規模での人々の普遍的価値を追求するためになされるもの。したがって研究の社会的責任は、狭い意味での国益、ましてや個人的な私利私欲より、はるかに上位の概念として共有されるべき

私が同意できない意見の例(4)

- 昨今の国際状況を鑑みると、日本の防衛力はより高めるべきである。この緊張状態において平和ボケした議論に終始してはいけ

⇒ 日本の防衛と、基礎研究者がそれにコミットした研究を行うべきかは、独立な問題。(意図的に)混同してはいけ。私が問題にしているのは後者。科学者が、「国を守るために」という錦の御旗を掲げて「自分の研究を守る」ことは容認できない。物理学者や生物学者がコミットしたために、大量殺戮兵器が実用化されもはや後戻りできなくなっている事実をよく考えてみるべき

私が同意できない意見の例(5)

- 若い研究者は須藤さんなどよりずっと深く考え判断している。未来を牽引する研究者に、旧世代の価値観を押し付けるべきではない
- ⇒ これには客観的な証明も反証もできない。将来は若い研究者の総意によって決まるべきだし、当然そうなるはず。ただし、ある学生から「この件を祖父と話したら、何であれ戦争に加担するのは絶対良くないの一点張り。これは敗戦のトラウマのように思える。もしも日本が勝利していたらずっと違う意見になったのではないか」と真面目に問いかけられて絶句した

形骸化・風化を防ぐために

■ 学術会議の声明で終わりではない

- 声明でも強調しているように、これを受けて、研究機関、学会など様々な場所で、安全保障と学術に関する検討を議論すべき
- 興味を示さない研究者にも、科学者の責任の重大さと向き合うような継続的議論の場を提供すべき
- 論文のコピペや入試問題ミスレベルでの過度な大騒ぎとは比較にならないほどの本質的問題
- 残念ながら、この問題に向き合うことを避けたいという意識の研究者は多い。それどころか、**軍事目的ではない自分の研究に研究費を支援してもらえるのだから素晴らしい制度であると公言する人もいる**

天文月報 シリーズ：安全保障と天文学

- 日本天文学会の皆さんへー安全保障と天文学シリーズの開始にあたってー (柴田一成)
- 安全保障に関する日本学術会議声明ー若手天文学研究者に向けてー (須藤靖)
- 軍事と科学ーナチスドイツとJASONー (池内了)
- 科学者・軍事研究・ヒューマニティ (小沼通二)
- 軍事研究に対する企業倫理と人の心のあり方ー企業人の視点からー (安井猛)
- 軍事的な研究と基礎科学的研究の区別 (釜谷秀幸)
- 戦時下日本で科学者はどのように軍事研究にかかわったか (河村豊)

まとめ

- もっとも重要な点は「学術研究とは、狭い意味での国や個人のためではなく、国境を越えた全地球規模での人々の普遍的価値を追求していることの再認識」
- 安全保障と学術という限定的設定ではなく、学術研究を支えるべき現状の根幹と密接に関わる問題
 - 研究者が自己目的／利益のための研究をやっていないか？
 - 大学/研究機関の基盤的経費の著しい削減
 - 競争的研究資金への過度の依存
 - 人文・社会科学分野不要論
 - 特定の研究分野/課題への研究費配分の偏り
 - これらはいずれも、昨今大きな社会問題となっている研究不正や若手キャリアパス問題の背景でもあり、根っこは同じ
- 将来、「あの時こうしていれば」と後悔したくない

カール・セーガン cosmosの序文(1980)

日本のみなさんへ

この本が日本でも出版されるのは、わたしにとってとくにうれしいことである。日本は高度に工業化された国であり、科学と技術に国民の未来をかけている国である。天然資源のほとんどない国でも、教育と知識と計画に力を入れ、技術開発に献身し、国防の重圧から自由であれば、大きなことをなしとげられる、ということを日本は証明してくれた。

Los Alamos from Below (1)

“Surely You’re Joking, Mr. Feynman!” (1985)

After the thing went off, there was tremendous excitement at Los Alamos. Everybody had parties, we all ran around. I sat on the end of a jeep and beat drums and so on. But one man, I remember, Bob Wilson, was just sitting there moping.

I said, "What are you moping about?"

He said, "It's a terrible thing that we made."

I said, "But you started it. You got us into it."

Los Alamos from Below (2)

“Surely You’re Joking, Mr.Feynman!” (1985)

You see, what happened to me - what happened to the rest of us - is we *started* for a good reason, then you're working very hard to accomplish something and it's a pleasure, it's excitement. And you stop thinking, you know; you just *stop*. Bob Wilson was the only one who was still thinking about it, at that moment.

Los Alamos from Below (3)

“Surely You’re Joking, Mr.Feynman!” (1985)

I returned to civilization shortly after that and went to Cornell to teach, and my first impression was a very strange one. I can't understand it any more, but I felt very strongly then. I sat in a restaurant in New York, for example, and I looked out at the buildings and I began to think, you know, about how much the radius of the Hiroshima bomb damage was and so forth . . . How far from here was 34th Street? . . . All those buildings, all smashed--and so on.

Los Alamos from Below (4)

“Surely You’re Joking, Mr.Feynman!” (1985)

And I would go along and I would see people building a bridge, or they'd be making a new road, and I thought, they're *crazy*, they just don't understand, they don't *understand*. Why are they making new things? It's so useless.

But, fortunately, it's been useless for almost forty years now, hasn't it? So I've been wrong about it being useless making bridges and I'm glad those other people had the sense to go ahead.